



# みちくさ

2015. 12. 21 No. 16

## 寅さ～～ん

「やけのやんぱち，日焼けのなすび，色が黒くて食いつきたいが，あたしゃ入れ歯で歯が立たないヨ！ときた…」

国民的映画と言われて一世を風靡した「男はつらいよ」シリーズですが，渥美清さんが亡くなってもう19年にもなり，正月映画にその名前が登場することもなくなりました。実に淋しい限りです。時々テレビで再放送されていますが，話の筋は分かっているけど，ついつい引き込まれてしまうし，いつの間にか涙が出てきてしまいます。観る度にとっても懐かしいような不思議な感覚を蘇らせてくれます。49作も続いた映画でしたが，いろいろ調べてみると，県内では松島や栗原でロケをしていた回もあったのですね。（ちなみに平成元年，マドンナは竹下景子さんです）

ところで，映画の最後の場面は，きまって正月のシーンになります。たこ揚げをしている風景が流れ，年賀状が柴又にいる妹さくらのところに届きます。「旧年中は大変お世話になって…」と，鉛筆で書かれた味のある葉書が映されます。そしてさらに全国各地にあるさもない神社が映り，初詣の人並みの中で，冒頭に書いたような粋な叩き売りの口上が出てくるわけです。

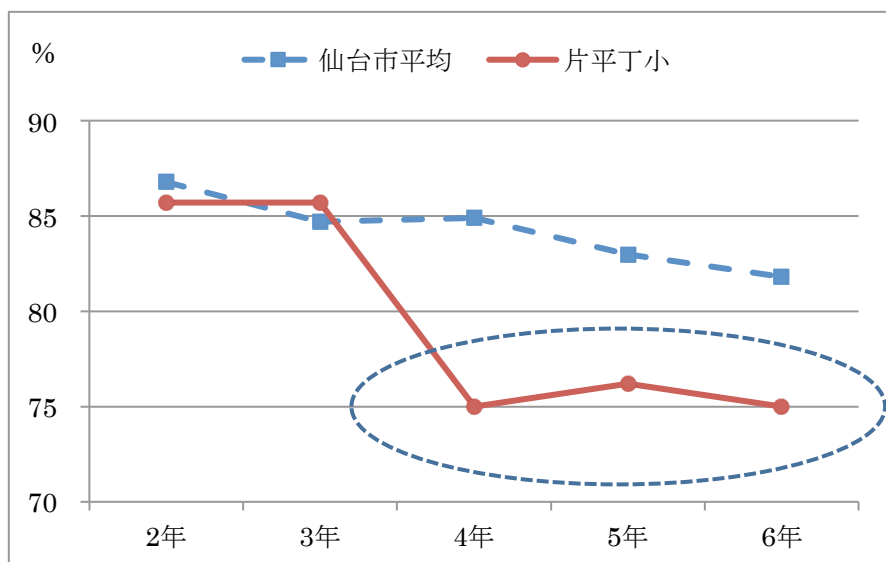
ところで，どうして最後がお正月なのかといつも思っていました。振り返ってみると，旧年中は失恋をし，柴又のみんなにもいっぱい迷惑をかけたから，お正月は心機一転，心も新たに頑張るぞ！という気持ちの表現なのではないでしょうか。

正月は，昔から家中をお掃除して神聖な気持ちで迎えるとか，初詣に行ったり親戚に挨拶回りをしたりと，その地域ごとにいろいろな風習があるようです。年末は大掃除をしたりおせち料理を準備したりと，忙しい時間を過ごすことと思います。どうぞ，子どもたちにも役割を与えて，家族の一員としての自覚をもたせていただきたいと思います。そして家族や親戚が集まったら，一年間の子どもたちの成長を喜び合いながら，皆でゆっくりと団らんができるといいですね。

正月のシーンで終わりにするのは，家族の絆であるとか，人と人とのつながりを育んでいくことの大切さを知って欲しい，自分の故郷を大事にし，誰でも優しく穏やかな気持ちになって欲しい，このように願う制作者の意図なのかも知れません。世界を見渡すと，紛争の絶えなかった一年だったので，なおさら穏やかな気持ちで新年を迎えたいと願います。



## これは衝撃的なデータだ！



4月に実施された仙台市学力・学習状況調査の一部です。仙台市の平均に比べ、片平丁小のデータが、4年生以上大幅に落ち込んでいるのが分かります。回答は各学年で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答をしたものを集約したものです。学年によっては、市の平均よりも10ポイント近く低い値になっています。

衝撃的なデータです。この先、中学校に進むと、この子どもたちはどうなるのでしょうか。大変心配になってきました。

さて…このデータはどんな質問に対する回答だったのか。種明かしをしますと、それは「家の手伝いをしていますか？」ということでした。市の平均から分かるように、どうしても学年が進むにつれて、値は低くなってきます。でも本校の4年生からの急激な落ち込みの原因は何なのでしょう。習い事などが入ってくるため、時間が無いのでしょうか。でもそれは理由になりません。大人の方がもっと忙しいのですからね。何も大がかりなことを望んでいるのではなく、ちょっとしたことでも家族の一員として出来ることをさせるべきだと考えています。

例えば…

- ・毎朝郵便受けから新聞を取ってくる
- ・玄関を掃く
- ・玄関の靴をきちんと並べる
- ・食べ終わった食器を片付ける
- ・自分の給食セットは自分で洗う
- ・お風呂掃除
- ・ゴミ出し
- ・お米とぎ
- ・洗濯物の取り込み
- ・自分の洗濯物を干す
- ・簡単なお使い
- ・自分の布団をしく
- ・食事の前のテーブルふき

このような簡単なことでいいので、ぜひ何かご家庭で決めてやらせて欲しいと思います。学校で清掃活動等はきちんとできるように教えています。役割を決めて、ぜひ家庭の仕事に参加させてください。家族の一員として自分が成長していることに気づいたり、できるようになった自分に喜びを感じたりすることは、学習意欲を高める上でも重要なことだと言われています。自分の成長や生活は家族に支えられているとともに、自分も家族を構成している大切な一人であることがわかるようにすることが大事ですね。

些細なことでもいいですから、子どもたちの手助けがあった時には、少々大げさなくらい「助かる～」と褒めてあげてください。きっと長く続くようになるかも知れません。